

詩の散歩道
理論社刊

吉田瑞穂少年詩集

空から来たひと

鈴木たくま・絵



理論社刊
の散歩道

吉田瑞穂少年詩集
空から
来たひと
鈴木たくま・絵



NDC911 空から来たひと

吉田瑞穂

理論社／1983年初版

126P／20cm／A5変型判

コード8392-32110-8924

詩の散歩道

吉田瑞穂少年詩集

空から来たひと ©

著者 吉田瑞穂

画家 鈴木たくま

制作 小宮山量平

発行 山村光司

発行所 株式会社 理論社

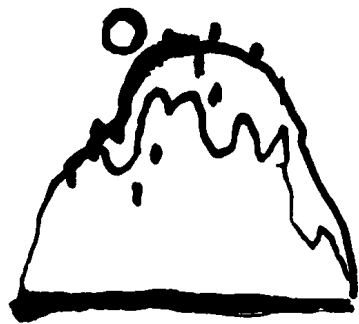
東京都新宿区若松町一五^ノ六

電話〇三―二〇三―五七九一（代表）
振替東京九―九五七三六

一九八三年 五月 第二刷

吉田瑞穂少年詩集＊空から来たひと

もくじ



1

たつまき

おさない日

針^{はり}ウナギとハゼの子

8

たつまき

12

2

ミットの音

少年のあそび

ねん棒^{ねんぼう}

16

チンチロビヤー

18

ペーゴマ

20

ミットの音

22

3

ちどりとじゅぶ棚^{だな}

魚たちと少年

十日の夕潮^{ゆづりうしほ}

24

4

カブト虫

少年と生活

落ち鮎あゆ 28

すみれいろの朝 32

春の岬みさき 35

ちどりとじゅぶ棚たな 38

ダクマンチヨウ 42

5

登山

山と少年

たなぼたの朝 46

れんげ草畑で 50

茄子畑なすはたけ 52

カブト虫 54

1 美しい毛むし 58

2 小さな冒険ぼうけん 59

6

海

海と少年

3 さんしようお 61

4 針の岩屋 62

5 頂上で 64

夜の海 68

青い海の波の妖気 はじめての経験 71

グチのうた 74

磯がにの三太 臨海学園で 76

7

虹とボーイング

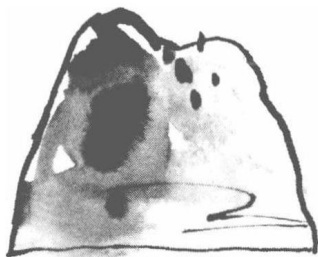
自然と少年

グランドキャニオン 80

バッテリーは行く 旧制中学生をあこがれる少年たち 82

ハレー彗星とホタル 86

櫨の木と台風 90



8

放物線と少年 96
虹とボーイング 100

空から来たひと

少年のめざめ

校門のわかれ 104

空から来たひと 108

9

テレビの中の湯川博士

ひろがる少年のゆめ

水上自転車 112

ケヤキは語る 116

ハイヒールをはいた駆逐艦 122

テレビの中の湯川博士

春夫のゆめ

120

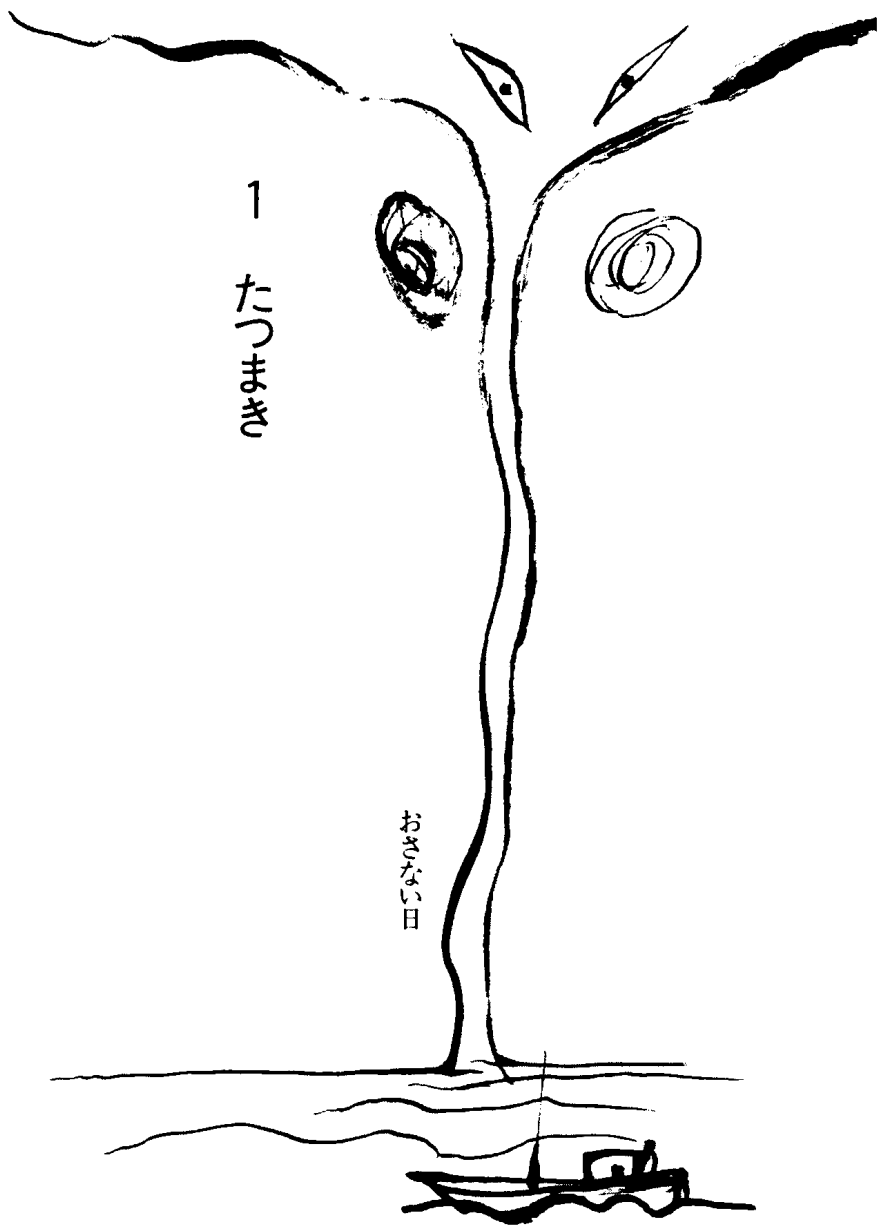
あとがき 124

そうてい・さしえ

鈴木たくま

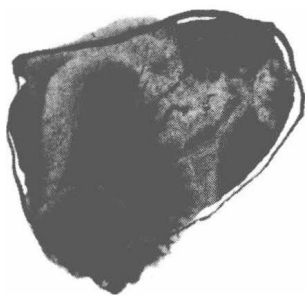
1
たつまき

おさない日



針^{はり}ウナギとハゼの子

まっばだかの春夫は
四つんばいになって
すきとおった浅^{あさ}い小川の
水に
こめかみのところまで顔をつけ



目をあけて川ぞこを見た

そこには

お母さんのつかう

もめん針^{はり}くらいの

かわいいウナギの子どもが

なんびきも なんびきも

小石のあいだに あそんでいる

メダカより小さいハゼの子も

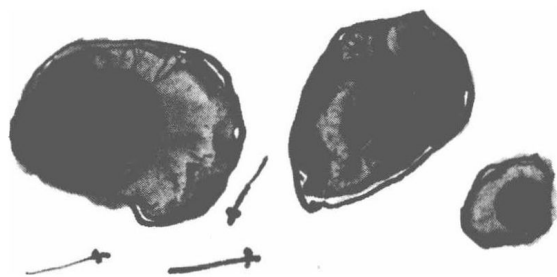
なんびきも なんびきも

小石のまわりを まわっている

春夫は ときどき

水から顔をあげ いきをいれ

また、顔を水につける



針^{はり}ウナギは針のように小さいのに

これから どこへいくのだろう

メダカより小さいハゼの子は

これから どこへいくのだろう

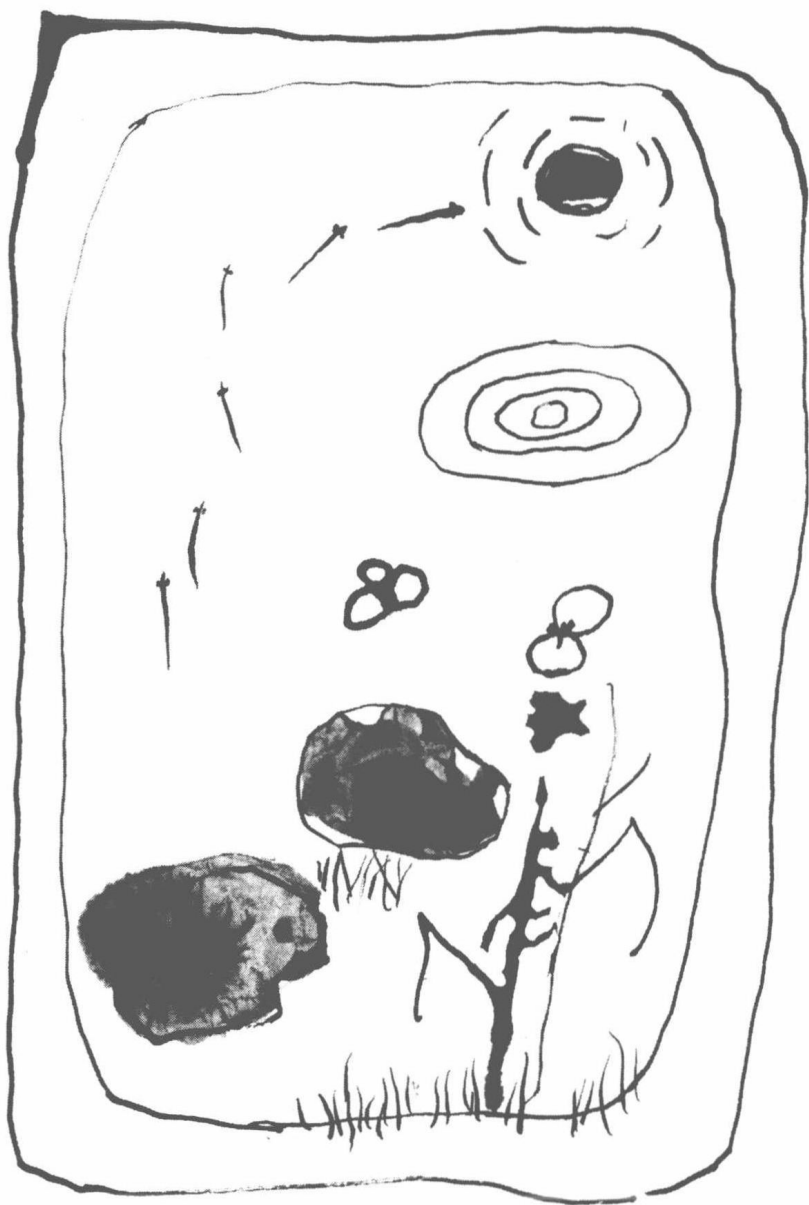
春夫は かんがえながら

水から顔をあげる

針^{はり}ウナギも ハゼの子も

あつたかくなつた夏の小川で

たのしそくに あそんでいる



たつまき

天^{てん}宝^{ほう}丸^{まる}の船長^{せんちやう}さんが

たつまきだ

たつまきだ

と さけんで

さつまいもの畑^{はたけ}のあぜみちを
海岸^{かいがん}へかけていった

春夫^{はるお}は弟^{あに}の手^てをひいて
ついていった

弟^{あに}の手^てはふるえていた

天^{てん}宝^{ほう}丸^{まる}の船長^{せんちやう}さんは

ひとりごとのように言った

あの濃^こい^(こい)か雲^うん^(の)ところから
竜^{りゆう}がのぼ^(のぼ)つ^(つ)とる^(とる)ばい

北東^{ほくとう}の方角^{ほうかく}は

天も空もない

うす墨^{すみ}いろの世界

筑後川^{ちくごがわ}の下流^{げりう}あたりに

まっくろな雲^うのなかから

象^{ぞう}の鼻^{はな}のよう^(な)なものが

海^{うみ}にたれさがっている

春夫^{はるお}たちは ことばもなく

立ちつづけていた

その日のゆうぐれどき

となりの村には

ボラやスズキなどが

空から降^ふってきたという話を

春夫は聞いた